令和五年五月は

漢詩鑑賞

**溪陰堂**

**白水滿時雙鷺下　　つる　り**

**綠槐高處一蟬吟　　き　ず**

**酒醒門外三竿日　　めての**

**臥看溪南十畝陰　　してるの**

【通釈】起句　(堂前の)清らかな水をたたえる渓流に二羽の鷺が舞い降り、

　　　　承句　(庭の)新緑のしたたるばかりの槐の樹に一匹の蝉が鳴いて

　　　　　　　いる。

　　　　転句　(目覚めると)昨夜の酔いも醒めて、門外の陽はすっかり高く

　　　　　　　のぼっているが、

　　　　結句　自分はまだ横になったまま、渓流の南の十畝ほどの農地の

　　　　　　　木陰を眺めている。

【語釈】　溪陰堂…真州(江蘇州)に在った范氏(人物不詳)の渓堂。

　　　　　白水…白い波をたてて流れる水。清らかな水。

　　　　　槐……えんじゅ。豆科の落葉喬木。

　　　　　（参考）白水・槐は「白水過庭激、綠槐夾門植。」〔文選・潘岳

　　　　　　　詩〕の用例がある。

　　　　　三竿…陽が高くのぼったさま。竿を三本つないだほどの高さ。

　　　　　　　　朝寝のたとえ。

　　　　　十畝…田畑の広さの称。一畝の十倍の広さ。

　　　　　　　　周代六尺四方を歩とし、百歩を畝とした。秦以降は二百

　　　　　　　　四十歩を畝とした。

　　　　　(参考)十畝は「十畝之閒兮、桑者閑閑兮。」(十畝の畠があれば、

　　　　　　桑を採り蚕を飼う人の心はであるの意)〔詩經･魏風･十畝

　　　　　　之閒〕を踏まえる。

【押韻】　平声、侵韻。吟、陰、起句は踏み落とし。

【解説】

蘇軾(一〇三六―一一〇一)は北宋最高の詩人であり大文豪。二十二歳で進士及第し高級官僚の道を歩んだが、王安石(新法党)の政治改革に批判的であったため二度流刑を受け、政治家としては不遇の一生を終えた。

　この詩は、元豊八年(一〇八五)蘇軾五十歳の作。その前、足かけ四年間流謫の地黄州(湖北省)で自ら耕作するという苦しい生活を送った後、元豊七年減刑され行動の自由が許されて常州(江蘇省)に移り、些かの土地を得てそこで余生を送るつもりになっていた。ところがこの年(元豊八年)三月皇帝神宗が崩じ哲宗(十歳)が即位し皇太后の攝政が始まるや政局が一変、政権が旧法党に移った。五月蘇軾は名誉を回復され登州(山東省)知事を拝命、更に十月中央に呼び戻され尚書礼部郎中となった。

　詩はその激動の最中の五月の頃、常州に近い真州での作とされている。起句・承句及び転句・結句をそれぞれ対句とし、田園の静かな風景の中に悠然と横臥する自らの姿を美しく由緒ある詩語により格調高く詠じ、激動する政局を見る作者の泰然とした心中を言外に示している傑作です。結句の「十畝陰」は詩経の「十畝の閒」を踏まえて、此の地で閑に余生を送るつもりでいたが……、の思いを匂わせています。

以上